菅向榮著

標準廣東語典

附臺灣俚諺集
重要單語集

吉亭書屋藏版

標準廣東語典

菅向榮著

附臺灣俚諺集
重要單語集

台北古亭書屋印行

© 1974 KU-T'ING

標準廣東語典

基價十五元

民國六十三年一月十五日 影印本發行

著者 菅向榮

發行者 古亭書屋

出版者 祥生出版社

內版台業字第二一六四號

經售處 古亭書屋

台北市景美區興德路十二號

郵政劃撥：第一五二一五五號

KU-T'ING BOOK STORE

P. O. BOX. 3010 MUCHA TAIPEI

NO. 12, SHEN TEH ROAD

CHIN MEI. TAIPEI

序

本島の如く人情、風俗、慣習、言語を異にする多數の民族を包擁する地に在ては相互の完全なる意思の疎通を計り圓滿なる社會を形成せしむることは統治の第一義である。而して此の目的を達する爲には先づ以て言語の統一を計ることを急務とするのである。卽ち標準語たる國語と各種地方語との對照連絡をとることが極めて必要とせられるのであつて、此の意味に於て國語と地方語との連繫となるべき學習書を編纂することの必要を痛感するのであるが、由來この種の事業は頗る難事とされ、改隷以來既に三十有餘年に達する今日に於ても、尙廣東語に關する書籍の公刊せられたものは極めて寥々たるものであつて、廣東族の國語學習者に將又廣東語學習者にとり甚だしく不便を感ぜしめ、斯種語典の刊行を要望するの聲切なるものがあつた。此の秋に際し菅向榮君の「標準廣東語典」を公にせらるれることは寔に時宜を得たるも

のと云はねばならぬ。

菅向榮君は廣東族出身の英才にして居常內臺融和の途に率先し、夙に教育界に身を投じ、現に臺北第二師範學校教諭として育英に努め、兼て臺灣總督府甲種語學試驗委員として廣東語を擔任し、又嘗て警察官及司獄練習所講師として廣東語の教鞭をとり其の名聲嘖々たるは敢て多辭を要しない所である。而して君は廣東語典の乏しきを慨し、自ら之を編纂せんことを志すこと多年、劇職の傍心血を濺いで本書の編纂に當り遂に獨力之を完成せられたものであつて、其の努力の結晶は唯に當面の學習者に對する好箇の指南車たるに止らず延て本島文化進展の上に寄與する所蓋し尠からざるものあり、敢て本書を江湖に推薦する所以である。

昭和八年七月一日

臺灣總督府警務局長　友部泉藏

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

凡例

一、本書は、廣東語を研究せんとする人、殊に國語を學習せんとする廣東人の爲に著述したものである。

一、本書に使用した符號假名は、大體、恩師劉克明先生の名著廣東語集成に使用されたものを踏襲して居るが、中には著者の創作したものもある。

一、第三篇の會話は、つとめて一般的のもの、實用的のものを收めてあるから、廣東地方に於ける國語講習會や、國語研究會の教材の一助にもなるかと思ふ。

一、本書に收めてある俚諺は、主として苗栗地方に行はれて居るもので、公務多忙の爲、廣く全島に亙つて蒐集することの出來なかつたのを遺憾に思つて居る。

一、本書に收めてある重要單語は、上田萬年博士と恩師松井簡治博士の不朽の大著大日本國語辭典から選出して廣東語に譯したものである。紙數の關係で十分に收め得なかつたのを之も遺憾に思つて居る。

一、本書を著述するに當つて、三矢重松博士の名著高等日本文法、恩師吉田彌平先生の名著中學日本文典、劉克明先生の名著廣東語集成・臺語大成等によつて啓蒙扶掖せられた所が多く、之に倣つて筆を下した所の尠なくなかつたことは、著者の深く感銘して居る所である。

一、本書は、三年前に既に脫稿したのであるが、種々の事情の爲に上梓することが出來なかつたのである。此の度友部警務局長・今田警務課長の御同情と御援助及び警務課の三宅正雄・小川廣吉・田畑源水諸氏の熱誠なる御勸誘と御鞭撻とによつて之を公にすることの出來たのは、衷心より感謝する次第である。

一、最後に御老體にも拘らず、御叮嚀に御校閲下さつた吉田彌平先生の御厚志を深謝し、併せて打算を外にして、本書の爲に多大の犧牲を拂はれた松浦屋印刷所主に對して謝意を表する次第である。

昭和八年七月

著者識す

標準 廣東語典 目次

第一篇 音調……一

第一章 廣東語の種類……一
第二章 六聲の符號と發音法……一
第三章 符號假名……三
第四章 有氣音と無氣音との區別……四
第五章 鼻音……五
第六章 轉調……六

第二篇 語法……八

第一章 名詞……八
第二章 數詞……九
第三章 助數詞……一〇
一、金錢・度量衡・里程に關するもの……一〇

二、時年月日等に關するもの……一七
三、事物に關するもの……二二
第四章　代名詞……三一
一、人代名詞の稱（附　親族姻族及其他）……三一
二、物代名詞の稱（附　重な地名及其他）……四一
第五章　動詞……五一
一、自動詞……五一
二、他動詞……五二
三、字音で話す動詞……五五
第六章　形容詞……五九
一、色合を形容するもの……五九
二、分量を形容するもの……五九
三、性質を形容するもの……六〇
四、有樣を形容するもの……六一
五、心持を形容するもの……六二
六、事物の存在せぬことを說明するもの……六三
七、名詞に形容詞を冠する場合……六四

八、動詞に附く場合……六五
九、名詞になること……六六
第七章　副詞……六六
第八章　助動詞……六八
一、過去・完了をあらはす場合……六八
二、現在をあらはす場合……六九
三、未來をあらはす場合……七〇
四、受動をあらはす場合……七一
五、可能・不可能をあらはす場合……七三
六、使役をあらはす場合……七四
七、打消をあらはす場合……七五
八、推量をあらはす場合……七六
九、希望をあらはす場合……七八
一〇、比喩をあらはす場合……八〇
一一、比較をあらはす場合……八一
一二、豫定をあらはす場合……八二
一三、當然をあらはす場合……八三

一四、命令をあらはす場合……八五
一五、禁止をあらはす場合……八六
1、命令的禁止……八六
2、要求又は勧告的禁止……八七
第九章　敬語……八八
第十章　接續詞……八九
一、竝列・累加の接續詞……九〇
二、選擇の接續詞……九一
三、反意の接續詞……九二
四、原因・理由の接續詞……九四
第十一章　感動詞……九五
一、文の首に附くもの……九六
二、文の末に附くもの……九七
第十二章　助詞……九八
一、語の上に附いて其の意義を助けるもの……九九
二、語の中に挿んで其の意義を助けるもの……一〇〇
三、語の終りに添うて其の意義を助けるもの……一〇一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

第三篇　會話……一〇三
第一章　挨拶(一)……一〇三
第二章　挨拶(二)……一〇三
第三章　新年……一〇五
第四章　訪問(一)……一〇六
第五章　訪問(二)……一〇八
第六章　途上(一)……一〇九
第七章　途上(二)……一一一
第八章　臺車……一一四
第九章　汽車(一)……一一五
第十章　汽車(二)……一一七
第十一章　人力車……一一九
第十二章　旅館……一二一
第十三章　汽船……一二四
第十四章　貸借……一二七
第十五章　賣買(一)……一二八

第十六章　賣買(二)……一三〇
第十七章　賣買(三)……一三一
第十八章　賣買(四)……一三三
第十九章　見舞(一)……一三四
第二十章　見舞(二)……一三六
第二十一章　診察……一三七
第二十二章　誘引……一三九
第二十三章　贈遺(一)……一四一
第二十四章　贈遺(二)……一四二
第二十五章　招待……一四三
第二十六章　依賴(一)……一四五
第二十七章　依賴(二)……一四六
第二十八章　謝辭……一四七
第二十九章　相談……一四九
第三十章　郵便局……一五一
第三十一章　電報……一五四
第三十二章　結婚……一五五

第三十三章　出生……一五五
第三十四章　弔慰……一五七
第三十五章　派出所……一五八
第三十六章　新入生勧誘……一六二
第三十七章　出席の督促……一六四
第三十八章　家庭訪問……一六七
附　臺灣俚諺集……一七一
ア……一七一　イ……一七一　ウ……一七五　エ……一七五　オ……一七五　カ……一七六　キ……一七八　ク……一八二　ケ……一八三　コ……一八四　サ……一八六　シ……一八九　ス……一九〇　セ……一九四
ソ……一九四　タ……一九七　チ……一九九　ツ……二〇二　テ……二〇四　ト……二〇四　ナ……二〇五　ニ……二〇五　ノ……二〇五　ハ……二〇五　ヒ……二〇七　フ……二〇九　ヘ……二一一　ホ……二一一
マ……二一二　ミ……二一三　ム……二一四　メ……二一五　モ……二一五　ヤ……二一六　ユ……二一七　ヨ……二一八　ラ……二一八　リ……二一八　ル……二一九　ロ……二一九　ン……二二〇

附　重要單語集……二一一

ア……二一一　イ……二一四　ウ……二一九　エ……二二一　オ……二二三　カ……二三七　キ……二四四　ク……二四九　ケ……二五一　コ……二五六　サ……二六一　シ……二六六　ス……二八四　セ……二八六　ソ……二九二　タ……二九五

チ……三〇五　ツ……三一〇　テ……三一三　ト……三一八　ナ……三二一　ニ……三二四　ヌ……三二五　ネ……三二五　ノ……三二七　ハ……三二七　ヒ……三三三　フ……三三九　ヘ……三四四　ホ……三四七　マ……三四九　ミ……三五三

ム……三五六　メ……三五九　モ……三六二　ヤ……三六五　ユ……三六七　ヨ……三六八　ラ……三七〇　リ……三七二　ル……三七四　レ……三七四　ロ……三七六　ワ……三七六　ヰ……三七八　ヱ……三七九　ヲ……三七九

標準廣東語典目次

第一篇　音調

第一章　廣東語の種類

本島に行はれて居る廣東語は四縣・海陸・竇平・永定等があるが、四縣は最も標準的のものであり、又最も廣く行はれて居るものであるから本書は之を採用する事にした。

第二章　六聲の符號と發音法

廣東語には、字音と話音との別がある。字音とは、讀書の際に用ひる其の字の音であつて、話音とは、日常用ひる俗語の音である。通常四聲(平聲・上聲・去聲・入聲)と云はれて居るのは、讀書の際に用ひるもので、談話するには、四聲だけでは足りない。上平・下平・上聲・去聲・上入・下入の六聲を用ひるのである。今其の發聲符號を示すと左表の通りである。

音／調	上平	下平	上聲	去聲	上入	下入
常音	ㄑ	ㄧ	ㄟ	ˊ	ˋ	ˏ
鼻音	ㄣ	ㄋ	ㄋ	ㄇ	ㄦ	ㄦ

常音の例　上平　養・昌・香・高・西・燒等
下平　陳・楊・涼・奇・文・時等
上聲　己・死・起・使・紙・李等
去聲　四・自・氣・做・利・事等
上入　粒・伐・譯・學・落・着等
下入　得・切・決・國・乙・北等

鼻音の例　上平　語・拿・馬・美・某・忍等
下平　明・民・梅・謀・堯・娘等
上聲　秒・耳・五・仰・努・女等
去聲　怒・系・誤・艾・味・餓等
上入　麥・逆・莫・沒・滅・熱等
下入　日・額・諾・脈・囑・襪等

右の發音法

上平は始めは平易に發音し、次第に音尾を強く揚げ、長く引き延ばす。

例　歌(コオ)・山(サアヌ)・三(サアム)・光(コオン)・方(フオン)・居(ギイ)等

下平はその音の響が平かで高低なく、何處までも同じ調子に發音して長く引き延ばす。

例　林(リム)・常(ソオン)・郎(ロオン)・諒(リオン)・房(フオン)・王(ヴオン)等

上聲は音尾を急に低く強く發音して長く引き延ばす。

例　賞(ソオン)・兩(リオン)・死(シイ)・散(サアヌ)・反(ファヌ)・使(スイ)等

去聲は音尾を急に高く強く發音して長く引き延ばす。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com